

ふみのみやこ

文京通信

文部科学省認可通信教育

放送大学東京文京学習センター
機関誌 No. 1

平成28年1月発行



目次

センター機関誌の発行を祝して	[岡野達雄 所長]	2
放送大学東京同窓会活動紹介	[齊藤成吾 東京同窓会会長]	3
ピュアサポート	[橋本泰孝]	3
クラス会支援委員会	[中村由美]	4
茗墨会	[石川秀子]	5
生活と芸術研究会	[黒澤節子]	5
2015年度 東京文京学習センター行事報告		6
南関東5学習センター創立30周年記念式典等について		7
2016年度1学期行事予定		8
編集後記		8

センター機関誌の発刊を祝して

所長 岡野達雄

長らく発刊が待たれていた東京文京学習センターの機関誌が「文京通信」というタイトルでスタートすることになりました。「いまさら紙媒体の会報の配布なんて？」という声もありましょうが、紙媒体のメリットも捨てがたいものがあり、遅ればせながら発行に踏み切った次第です。

インターネットを媒体とした広報は、速報性・グローバル対応能力・マス対応能力・経済性など多くのメリットがありますが、紙媒体による広報はもっぱらこれらのメリットの影の部分を負うように思われます。電子媒体の速報性は、時の流れに乗っている状態で情報補給するには便利ですが、時の経過を眺めたり記憶を保存したりする目的には紙媒体が優っております。また、情報を大局的に捉えやすいのも紙媒体です。前書きから結論までを瞬時に移行したり、色々な情報を一目で見て雰囲気や気配を感じることができるのも紙の上ならではのことです。

学習センターから発信される情報は、放送大学生の学びを学習センターとして支援するためのものです。学習センターは、数ある通信制大学のなかで放送大学のみが持っている全国的なネットワークでつながっている実空間キャンパスです。単位認定試験や面接授業の場所として、認識しておられる方は多数おられることと思いますが、学習センターという場には、それに留まらない様々な機能があります。これらの機能の基本であり目的でもあるのは、学生の皆さん相互の交流の場であることです。フェイスブックやメーリングリストは、自宅のみならず通勤途中の電車の中

でも、学生同士の交流ができるシステムですが、全ての人がネットに習熟している訳ではありません。また、ネットを介して親しくなった放送大学の友人とセンターに集まって顔を見ながら話をする事で、ネット社会もさらに豊かなものとなることと思います。学習センターで発行する機関誌は、放送大学生の交流の場を支えるために活用されることが最も重要でありますので、在校生、同窓会会員、教職員等々、センターに集うすべての人のアイデアや意見を集め、紙面に載せて行きたいと思います。現在、東京文京学習センターにおいては、多数のゼミやサークルが活発に活動していますが、「文京通信」では、これらの活動の現状や成果の紹介にも活用していただければと思います。

第二号以降は、機関誌編集委員会を立ち上げ、多くの方々に支えていただける体制を作っていく予定です。放送大学には様々な経験をお持ちの学生がおられることは十分承知しておりますので、是非、お力をお貸しいただきたくお願いする次第です。イラストや写真の寄稿は特に歓迎いたします。郵送費低減という観点から決めたことではありますが、発行は多くの在校生がセンターを訪れる機会である単位認定試験に合わせ、1月と7月の2回を予定しております。面白く役に立つ機関誌となりますよう、今後の成長を暖かく見守っていただければ幸いです。

最後になりますが、第一号の編集にあたられた事務スタッフや急なお願いにもかかわらず快く原稿をおまとめいただいた寄稿者の皆様に厚く御礼申し上げます。

放送大学東京同窓会活動紹介

東京同窓会会長 齊藤 成吾

東京同窓会は東京文京同窓会と東京第一同窓会が昨年 5 月に合併し、会員数は約 1530 名を有する全国一の同窓会となりました。

顧みて、両同窓会は放送大学同窓会の支部組織として旧東京第一が 1990 (H2) 年 10 月に、東京文京（当時東京第二）が 1991 (H3) 年 2 月に設立しました。その後 1998 (H10) 年に放送大学同窓会は放送大学同窓会連合会へ移行。両同窓会はそれぞれ独立した組織として放送大学同窓会連合会に加盟し、約 25 年にわたり同窓会活動を展開してきたことになります。

同時に両同窓会を取り巻く環境は放送大学の変化に対応した形で大きく変移してきたということがいえましょう。今後も大学側との情報の共有を図りつつ、その連携のパイプをより大きくして、今後の同窓会活動を図っていく必要性を痛感しております。

今までの同窓会活動は、学園祭、講演会、見学会、散策、私の主張（課題・体験）発表会、地域交流会、文京交流会、会報発行等が主です。

今後の取り組みとしては、東京文京 SC・学生サークル・同窓会を三位一体の組織として学内に限らず、東京文京 SC 周辺にもその輪を広げていくことも必要なことではないかと考えております。そのためには、会員の皆様のお力添えが不可欠なことであり、卒業・修了生及び学生の皆様の同窓会への入会を大いに期待し歓迎しております。

ピュアサポート

代表 橋本 泰孝

学習センターには、たくさんの仲間との出会いがある。そんな出会いの手助けになればと平成 24 年 5 月から学生間での学びの助け合いを目的としたピュアサポートチームを立ち上げました。学生同士のつながりが学生生活をよりよいものになりたいと考えたからです。実は、一番困っていたのは、私自身だったからです。入学して、3 年ほど孤独だった。誰に何を聞くでもなく、ただ悲壮感で一杯だった日々があった。

現在、相談員は、橋本、高橋の 2 名で学習相談を行っている。平日は、仕事をしているので、土曜日か、日曜日のいる時間だけに限るが、ここから友達の輪を広げていきたいと思っています。

ピュアサポートの活動は、学習相談はもちろんのことラウンジにある放送大学文庫、うたとおしゃべりの会（コーラス部）などの活動も行っている。できれば、皆様も、一步踏み込んでサークルなどに顔を出してみたいはいかがでしょうか。

相談者もいつの間にか、1500 人近くになり、最近最も多い相談が学部を卒業して大学院に入学したいという相談です。放送大学は単位だけで卒業できるが、しかし、何か忘れ物をしたような感覚に陥るのは私だけではないようです。

「卒業研究」です。一度も書いたことのない人は、ぜひチャレンジして下さい。

相談員の募集もやっています。できれば、放送大学を数回卒業していて、地方の面接授業などにも、何回も行っている。社会貢献やボランティア精神のある人を求めています。

クラス会支援委員会

委員長 中村 由美

東京文京学習センターでは、2015年度より入学年次別のクラス会を発足しました。放送大学は通学制大学と比較して、同年度の新入学生がともに学ぶ機会が僅少で、概して孤立感を生じやすく、また、修学までの情報を学生個人に任せられている傾向があります。クラス会は放送大学での学び方に順応していく交流の場と捉え学習計画や通信指導、単位認定試験、卒業研究などを通じて、卒業にいたる学生の割合を増やす目標があります。

クラス会は、東京文京学習センター、クラス会支援委員会、年度毎の新入学生有志による企画員の三位一体の体制で運営しています。2015年度は5月31日、8月9日、10月31日と開催し、次回は2016年2月14日の前後期合同の年次クラス会です。これまでに岡部洋一学長のご講話に続いて、島内裕子教

授、宮下志朗教授、森義仁教授、星薫准教授、佐藤仁美准教授、川原靖弘准教授などをゲストにお招きしました。

参会者からは1人で勉強しているのではないと実感したとの嬉しい声が届き、新入学生同士の学友作りが実現しています。特定の興味を持つ集まりではなく豊かな学生層と多様な社会経験者が集まる機会を提供し、先行の愛知学習センターに倣って1年を迎えつつある東京文京学習センタークラス会の有効性がいま注目されています。

2016年4月3日(日)の「第1学期入学者の集い」では、クラス会開催の紹介や、新入学生の会員募集を行います。当日はクラス会ブースを設営し、素朴な疑問にもお答えするなど、今後の学習へお役立てください。クラス会支援委員会およびクラス会企画員一同、心よりお待ちしております。

放送大学東京文京学習センター所長 岡野 達雄
クラス会支援委員会委員長 中村 由美

放送大学 東京文京学習センター
2015年度入学者 合同クラス会開催のご案内

皆さま、いかがが大学生活をお過ごしですか。2月14日(日)開催のクラス会は、2015年前期および後期入学者合同の年次クラス会です。2016年度1学期・科目登録申請期間のはじまりに合わせました。単位認定試験の感想や体験談、修得科目や面接授業の情報交換など、新学期に向けた科目選択や学習方法などにお役立て下さい！
認定心理士・学芸員資格・卒業研究なども検討中。専任教員のお招きも予定。
学生同士の輪を広げて有意義な時間が過ごせるように、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

記

日時：2016年2月14日(日) 14時開場(受付13:30から)
場所：東京文京学習センター 多目的講義室1(地下1階)
参加費：無料 ※授業科目案内(オレンジ冊子)、面接授業時間割表をご持参下さい。
平成28年度第1学期版(平成27年度第2学期版でも結構です)

◆ 連絡担当先：放送大学東京文京学習センター 03-5395-8688 Mail: classkai@ouj.ac.jp ◆



茗墨会

石川 秀子

今年の年賀状の中に何通手書きのものがあつたでしょうか。毛筆で書かれた賀状はさらに少なかったことと思います。デジタル時代だからこそ手書きのお礼状などをいただくと大層心のこもった感じを覚えます。ご祝儀袋や展覧会の受付などで、厭わずに毛筆できれいに名前が書けたらとか、普段から筆を持ち慣れていたならばもう少しましな署名ができたのにと度々思います。

小学校以来筆を持ったことがないという方も墨の香りをかぐと習字の記憶がよみがえることと思います。騒がしい子供たちでさえ紙を前にして筆を運ぶときは、一瞬であつたとしても静かに集中するものです。習字は文字を上達させることだけではないのです。子供たちが一瞬でも集中したように、墨をすり始める時から心を落ち着けて筆を運ぶことは、静かに自己と対峙するひとつの精神修養的な面もあるかと思ひます。書いている時は日常の雑念から解放されるという利点もあります。また姿勢も大切です。姿勢が悪いとよい線が書けませんし、文字も美しくなりません。

茗墨会の練習日は、原則毎月第3火曜日、2時から5時までです。二宮少蓉先生（日本書道学院）の丁寧なご指導のもと、実用書道から漢字、仮名等の古典まで熱心に練習しています。学園祭では、半切・八つ切り・色紙・葉書などの作品を発表展示していますが、すべてが力作揃いです。上達のこつはたくさん書くことです。たくさん書いて筆に慣れれば必ず上達します。どうぞ気楽に見学にお出で下さい。

生活と芸術研究会

黒澤 節子

毎月第一水曜日の午前10時、サークル全員での文献の音読が始まる。その後担当者から文献について調べてきた事柄が発表される。昭和63年1月に発足した我がサークルは放送大学の中でも老舗であると自負し芸術と標榜しているが、ただひたすらに文献を読むだけである。

発足のきっかけは、和食文化の第一人者として高名な熊倉功夫教授の講義科目「生活と芸術」。年中行事や季節ごとの室礼。身近な道具に至るまで心を遣い、日常生活の中に美を求めたかつての日本人の生活文化の原点はどこにあるのかをさらに学びたいという学生たちの思いから出発した。現在は、近代日本を作る一翼を担った明治、大正の実業家達の茶会記を読んでいる。当番になって、関係する場所に赴き資料を集めることは、卒論作成に大いに役立ち、メンバーの多くが一度は卒業を果たしている。結果、サークル活動を続けるため再入学という事になる。また、文献に関係した諸施設を見学することも活動の大きな柱である。三井家の人々が茶会記に登場した時には、麻布の三井倶楽部での新年会、大磯の三井別邸跡の見学。国宝茶室を写した大磯如庵での茶会を楽しんだ。昨年は静岡で小堀遠州の復元茶室を見学し、世界各国のお茶を体験。新年会では、店主から生間流の式包丁を特別披露してもらえた。

当サークルが長く続いてきたのはこのように学んで、体験して、おいしい物を食べてと、楽しいから。我がサークルに入会して皆さんも一緒に楽しみませんか。

2015 年度 東京文京学習センター行事報告

○入学者の集い

4 月 5 日（日）、多目的講義室 1 において、27 年度 1 学期の入学者の集いが開催されました。

○学園祭

8 月 30 日（土）、31 日（日）の両日、学園祭（茗荷祭）が、東京文京学習センター内で行われました。今年度は、お天気には恵まれませんでした。参加された各学生団体等、熱の入った活動ぶりには、目を見張るものがありました。また各サークルを回るスタンプラリーに参加された方が、うれしそうに景品をゲットする場面など、微笑ましい光景が見られました。

○研修旅行

9 月 17 日（木）、早朝から東京文京学習センターをバス 2 台で出発し、多数の学生さんだけでなく、岡野所長を始め、客員教員、事務職員も参加し、東京都東村山市にある国立ハンセン病資料館を見学、埼玉県比企郡嵐山町の国立女性教育会館で昼食をとり、同じ比企郡小川町にある埼玉伝統工芸館では、ユネスコ無形文化遺産となった細川和紙の実演を見学しました。

この中で、国立ハンセン病資料館では、館内見学・ビデオ鑑賞を通じて、当時の強い差別意

識を感じ、「差別」というものの意味を、改めて考えさせられる研修旅行となりました。

○入学者の集い&卒業証書・学位記授与式

10 月 3 日（土）、多目的講義室 1 において、午前中に 27 年度 2 学期の入学者の集い、午後から卒業証書・学位記伝達式が行われました。

○クラス会

東京文京学習センターでは、今年度から同じ時期に入学した学生さんの横のつながりを保つために、27-1、27-2 という 2 つのクラス会を始めました。また 2 月 14 日（日）は、27-1、27-2 のクラス会が、合同で行われます。

○その他

9 月 15 日（火）、筑波大学と合同で、避難訓練が実施されました。面接授業中でしたが、岡野所長、事務職員だけでなく、学生さんも数名参加していただきました。

12 月 17 日（木）、岡野所長を始め、事務職員を対象に AED 講習会が、事務室内で実施されました。



研修旅行：国立ハンセン病資料館で、説明を受ける参加者



研修旅行：埼玉伝統工芸館で、紙すきの実演を見る参加者

放送大学 南関東 5 学習センター 創立 30 周年記念式典等について

南関東 5 学習センター（埼玉、千葉、東京渋谷、東京文京、神奈川の各学習センター）は、学生を受け入れて 30 年目を迎え、平成 27 年 11 月 1 日（日）に東京文京学習センターで、記念式典、記念講演会（式典・講演会は、筑波大学 134 講義室）、記念祝賀会（東京文京学習センター多目的講義室 1）を举行了しました。多くの同窓生、在学生、教職員、所長・事務長経験者、本部関係者等の方々が参加されました。



30 周年記念式典で、挨拶する岡野所長

記念式典は、14 時から行われました。最初に 30 周年を迎えた 5 学習センターを代表して、東京文京学習センター岡野達雄所長の挨拶があり、祝辞を白井克彦放送大学理事長から、卒業生代表の矢野正義放送大学同窓会連合会長、在学生代表の岡里順子さん（埼玉学習センター）から、それぞれいただきました。

最後に出席者全員で、学歌を斉唱し、式典を終了しました。

引き続き、記念講演会は、岡部洋一放送大学学長を迎え、「放送大学の現状と将来」というテーマで行われました。

記念祝賀会は、16 時から場所を多目的講義室



記念講演会で、講演する岡部学長

1 に移して、開会の辞を埼玉学習センターの武内英則同窓会長、乾杯の挨拶を千葉学習センターの山岸清一郎同窓会長、閉会の辞を神奈川学習センターの左葉慎二同窓会長からいただき、会場に設置された 5 学習センターの 30 年記念パネル、当日欠席された方からのメッセージを見ながら、参加者間の旧交を暖めている模様が、会場内のアチコチに見られました。

参加者からも、非常に良い式典等だったというお話をいただきました。

また欠席者からの理由は「当日、面接授業があり」という方も多く、放送大学ならではのメッセージらしいとの話もありました。



30 周年記念式典で、祝辞を述べる白井理事長

2016 年度 1 学期 行事予定

4 月 3 日 (日)	入学者の集い
4 月 16 日 (土)	面接授業開始
4 月 22 日 (金)	面接授業追加登録受付
5 月 22 日 (日)	クラス会 (28-1) 予定
6 月 19 日 (日)	大学院修士課程希望者ガイダンス
6 月 26 日 (日)	卒業研究ガイダンス
7 月 22 日 (金) ~ 7 月 31 日 (日)	単位認定試験
8 月 5 日 (金)	面接授業終了
8 月 20 日 (土) ~ 8 月 21 日 (日)	教員免許更新認定試験
9 月 23 日 (金) ~ 9 月 24 日 (土)	看護師資格取得単位認定試験
9 月 25 日 (日)	卒業証書・学位記伝達式

編集後記

東京文京学習センターで、初めて「機関誌」を発行することになりました。

発行が決まってから、非常に時間が無く、原稿を依頼した方々に、かなりのご無理をお願いして、何とか初号を出せることになり、関係者の皆様に感謝しております。

近年、厳しいセンター予算の中で、岡野所長の英断で、機関誌の予算を確保できたことも、今回の機関誌発行には、大きな影響がありました。

今後、年 2 回の予定で、機関誌を発行していきたいと考えております。本学習センターで活動しているサークルで、今回は紙面の関係で、ご紹介できなかったサークルについても、順次ご紹介をしていきたいと考えておりますので、原稿の依頼がありました際は、よろしく願いいたします。

文京(東京ドーム)



東京文京学習センター 機関誌「文京通信」編集委員会

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1